



普通高等教育“十五”国家级规划教材

# 新编

第四册

## 日语泛读

しんぺんにほんごたどく

王秀文 李庆祥 (日) 山鹿晴美 编著



普通高等教育“十五”国家级规划教材

# 新编 第四册 日语泛读

しんぺんにほんごたどく

王秀文 李庆祥 (日) 山鹿晴美 编著

外语教学与研究出版社

北京

## 图书在版编目(CIP)数据

新编日语泛读. 第四册 / 王秀文, 李庆祥, (日)山鹿晴美编著. — 北京: 外语教学与研究出版社, 2006. 6

ISBN 7-5600-5593-1

I. 新… II. ①王… ②李… ③山… III. 日语—阅读教学—教材  
IV. H369. 4

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2006) 第 050284 号

出版人: 李朋义

责任编辑: 刘宜欣

封面设计: 袁璐

版式设计: 韩晓梦

出版发行: 外语教学与研究出版社

社址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网址: <http://www.fltrp.com>

印刷: 中国农业出版社印刷厂

开本: 889×1194 1/32

印张: 14.75

版次: 2006 年 5 月第 1 版 2006 年 5 月第 1 次印刷

书号: ISBN 7-5600-5593-1

定价: 22.90 元

\* \* \*

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)88817519

## 编写说明

本套教材（共四册）是作为1992年立项的《日语阅读课程改革与研究》（辽宁省教育委员会人文、社会科学重点基础研究课题。主持人：王秀文）研究成果之一而编著的。1994年春通过中国高等院校外语专业教学指导委员会组织的审稿会审定，于1994~1996年期间由高等教育出版社以《现代日语阅读教程》（共四册）出版发行；1999年开始修订，于2000~2002年期间由外语教学与研究出版社以《日语泛读》（共五册）出版发行。

在近十年的时间里，本教材得到全国数十所大学日语专业选用，在补充了该类教材种类不足的同时，有效地促进了中国日语教学的发展，也确立了该教材的社会地位。2002年本教材被确定为中国教育部普通高等教育“十五”国家级规划教材。

藉此之机，在出版社的支持下，于2004年开始着手选材和新编工作，更换了原《日语泛读》近三分之一的内容（第四册的第一、二、四、五、十三、十五、十八、二十三课为新替换内容），进一步增强了时代感和可读性，同时兼顾广大考级、考研及自学日语者学习之便，为全书正文添加了中文参考译文。

本教材第四册由王秀文、山鹿晴美执笔编著。参考译文原则上以直译为主，大连民族学院助教郭勇翻译了三、六、七、八、九、十课，在读研究生赵美玲同学翻译了一、二、四、五、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十三课，在读研究生喜君同学翻译了二十、二十一、二十二、二十四、二十五课。译文全文由王秀文修改校正。

最后，谨向多年来使用和关心本教材的广大教师和同学们表示感谢，敬请一如既往提出宝贵意见，以便重新修订时参考。此次新编出版，得到了外语教学与研究出版社日语工作室的协助，同时也得到了《人民中国》杂志社王众一主编的大力支持，在此一并表示衷心的感谢。

编著者

2006年4月

## 原版编写说明

《现代日语阅读教程》是为适应我国日语教育的发展和日语教学的需要而编写的辅助性教材,主旨在于通过有指导的大量阅读,来提高学生阅读理解和外语思维、分析的能力,以达到巩固所学的语言知识;扩大知识面和词汇量;丰富日语语感;运用日语进行交际的目的。本教程适用于日语专业的泛读课、大学日语的阅读课和各类日语教学单位的教学,也可供广大自学日语的人员使用。

本套教程分为四册,每册25课,可供教学单位选择使用。每课由课文、ことばの説明、練習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ等部分构成。课文选入的文章,力求避免与国内其它教材中已出现的文章重复。文章篇幅以3,000字左右为起点,渐次增至6,000字左右,在编排上采用了循序渐进、由浅入深的原则。选材时充分注意了文章的思想性、实用性、知识性、科学性和趣味性,同时也兼顾了文章题材的广泛性和体裁的多样性。为扩大学生的视野和知识面,还有意选用了个别从语法和句子结构的角度来看不是很规范的文章。

“ことばの説明”部分,从课文中提出了会影响阅读或理解

的词语约2%左右，并标注日语读音或汉字。与前三册不同，本册生词采用日语注释。有少量在意思上一目了然，但发音却有些难度的汉语词汇和一般性人名、地名等，在课文中标注着“振り仮名”。《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》中规定的词汇，原则上不在此列出。

练习的编写，以努力提高学生的理解能力和突出练习在教学中的指导性作用为原则。“練習Ⅰ”以词语练习为主，从课文中提出与文章理解密切相关的词语（包括语法现象）5个左右作为问题，而且每个问题后都设有答案若干，以选择的方式进行语义及用法方面的练习。“練習Ⅱ”以内容练习为主，从课文中提出与文章内容的理解密切相关的问题（包括语法和句法现象）5个左右，并结合文章内容在每个问题后设有答案若干，供选择练习。“練習Ⅲ”以结合文章的主题思想和中心内容为前提而提出2个左右问题（本项练习从第一册第15课开始设），以供学生从语篇的角度进行思考、分析和概括。“練習Ⅳ”为快速阅读部分，每课都选择一篇题材和内容与正文相近的短文为语言材料，并从中提出3个左右语言理解方面的问题或分析归纳方面的问题，以选择的方式供理解练习。短文选用标准与课文部分相同。这一部分为教学上的补充内容，在时间要求和教学方法上可灵活处理。

《现代日语阅读教程》（1~4册），由王秀文（辽宁师范大学）任主编，李庆祥（山东大学）任副主编。第四册由王秀文、村田裕子（日本北海道大学语言文化部）编写。刘耀武先生（中国日

语教学研究会会长、黑龙江大学外语学院副院长、教授) 审定了全文。

由于我们经验不足, 水平有限, 加之时间仓促, 错误及不当之处在所难免, 欢迎日语界同仁及同学们批评指正。

最后, 本教程的编写和出版得到高等教育出版社外语编辑室原主任尹学义先生的大力支持和帮助, 特表谢忱。

编者

1995 年元旦



# 目 録

第一課	大学の現状と動向 .....	1
第二課	草の根交流で知った隣国 .....	11
第三課	団塊世代老後の闘い .....	23
第四課	世界と日本の産業・資源 .....	36
第五課	大相撲の世界 .....	53
第六課	QOL（生命の質） .....	64
第七課	シャクシ・女・魂 .....	76
第八課	大人たちの「不愉快病」 .....	87
第九課	暑い夏 .....	99
第十課	こじれる学校「事件」 .....	111
第十一課	セメント樽の中の手紙 .....	123
第十二課	過労死の原因と背景 .....	135
第十三課	問われる日本の「過去の清算」 .....	148
第十四課	不幸な予言者 .....	161
第十五課	つつましく貧しく清楚な形——注連縄 .....	173
第十六課	あいまいな日本と私 .....	186
第十七課	消費文化の誕生 .....	198

第十八課 言葉に夢中になる快樂.....	209
第十九課 木の根.....	226
第二十課 外国人も「住民」.....	237
第二十一課 21世紀への新しい道.....	250
第二十二課 深刻化する酸性雨.....	262
第二十三課 江戸の人々と浮世絵.....	274
第二十四課 和語・漢語・外来語をめぐって.....	288
第二十五課 新・日本型経営の確立.....	301
<b>参考译文</b> .....	<b>314</b>
<b>参考答案与题解</b> .....	<b>406</b>

## 第一課 大学の現状と動向

### 大学全入時代

大学・短大の志願者数と入学者総数が同数になる、という試算上の状態。少子化で志願者が減っているのに、大学・短大の定員はそれほど減らず、選り好みをしなければ進学希望者全員が入学できるため、「全入時代」と呼ばれる。2007年度がそれにあたる、という見通しを文部科学省が04年7月に示した。1997年に旧文部省が試算した時は、09年度と見積もられており、「全入時代」の突入は2年前倒しになる計算だ。

試算のもとになったのは03年度春の入試実績で、志願者85万4千人に対して入学者は71万8千人。志願者、入学者ともに減り続けて、07年度に69万9千人で一致し、その後は同数のまま推移する、と予測している。

現実には志願者が集中する学校と、定員割れに悩む学校との二極化が進んでおり、「全入時代」をにらんで、生き残り競争が激しくなっている。

従来、学生獲得の悩みがあまりなかった国公立大や有名私大も競争に乗り出した。岐阜大は全国紙1面での広告掲載をスタート、全国区の知名度を狙う。福島県立会津大は、優秀な学生をいち早く確保しようと、高校2年生を対象とする「飛び入学枠」を06年春の入試で導入することを決めた。また慶応大と早稲田大は05年春の入試に向けて合同説明会を開催、ブラ

ンドの相乗効果と、「ライバル校」のタッグという話題性もあって、にぎわった。

また、入試科目の削減など「入り口」での獲得策に加えて、長引く不況下で「出口」の工夫が、生き残りの大きなポイントになるという考えから、就職活動の支援の手厚さをPRする私立大も増えている。

兵庫県の<sup>ひょうご</sup>大手前大<sup>おほてまえだい</sup>は05年4月に新設する学科で、在校中はもちろん、中高年になってからの転職・再就職についても面倒をみる「生涯キャリアサポート事業」を始める。大学が就職支援会社と提携し、適職探しや企業紹介をするものだ。費用は卒業後数年間は全額、その後も一部は大学が負担する。最終的には全卒業生を対象にする計画だ。

こうした中、中央教育審議会の大学分科会は、生き残りを迫られる大学・短大が今後「研究に重点を置く学校」「教養教育に力を入れる学校」というように、機能別に分かれて個性化・特色化していくと見て、15～20年ごろまでを見据えた「高等教育の将来構想（グランドデザイン）」の検討を進めている。

## 大学倒産時代

少子化と長引く不況で、私立の大学や短大が厳しい経営を迫られ、学生募集停止も増えている。本格的な選別、淘汰の時代に入り、「大学倒産」も現実味を帯びてきた。日本私立学校振興・共済事業団が2002年12月、私立の4年制大学を経営す

る461法人のすべてを対象に調べたところ、01年度に赤字だったのが全体の約4分の1の109法人と、2年前の3倍に急増した。短大はさらに深刻で、194法人のうち半分近い85法人が赤字だった。

赤字の大学法人は1999年度（37法人、8.9%）まで大きな変化はなかったが、00年度に前年度までの2倍近くの69法人（同15.9%）に膨れ、01年度はさらに増加。

私立大学法人は収入の6割近くを学生からの納付金に頼っている。学生数減により、1法人あたりの収入は、5年間で平均8億4500万円（7.0%）減った。学校法人は一般企業と会計の仕組みが違うため、単純比較はできないが、収入に対する支出の比率が100%を超えたということは、著しく経営が窮迫していることを意味する。ここ2、3年、18歳人口の減少が一時止まっていたのに、赤字法人が急増したのは、顕在化していた「勝ち組」と「負け組」の二極化が一気に進んだためと推測できる。

また、文部科学省によると、学生の募集停止は00年度は1大学だったが、01、02年度が各4大学、03年度が8大学と年々増えている。この17大学のうち、2大学はすでに廃学し、13大学は学生が卒業した時点で文科省に廃学を申請する見通し。

同事業団の調べでは、02年春、私立大506校のうち入学者数が定員を割り込んだ大学は全体の約3割にあたる143校あり、定員の半分にも満たなかった大学も13校を数えた。私立短大の02年度の志願者数も約19万7000人で、10年前の4分の1以下に。この結果、私立短大の48%が定員割れした。18

歳人口はこの10年で約205万人から150万人に減り、今後さらに減る。「勝ち負け」の分かれ目は、伝統やブランド、偏差値などではなく、いかに学生を主役にした教育ができるかにかかっている。

【『朝日キーワード 2005』による】

### ことばの説明

試算 [しさん]	ためしに計算すること。その計算。
選り好み [よりごのみ]	好きなものだけ選ぶこと。
見通し [みとおし]	なりゆきを確実につかむこと。
見積もる [みつもる]	おおよその計算をする。概算する。
前倒し [まえだおし]	予算の執行や施策の実施などを、予定の時期を繰り上げて実行すること。
定員割れ [ていいんわれ]	規則で決まっている人数より下がること。
生き残り [いきのこり]	他のものが死んだあとに、生きてこの世に残ったこと・人。
乗り出す [のりだす]	進んで関係する。
合同 [ごうどう]	二つ以上のものが一つになること。

ブランド [brand]	銘柄。
相乗効果 [そうじょうこうか]	二つのことが互いに影響しあつて、強められた効果。
タグ [tag]	「タグマッチ」の略。プロレスで双方が二人ずつの組になってする試合。
長引く [ながびく]	長くかかる。
ポイント [point]	要点。
手厚さ [てあつさ]	取り扱いが丁寧なこと。懇ろなこと。
PR する [アピールする]	広報活動をする。
キャリアサポート [carrier support]	職業を支持すること。
見据える [みすえる]	しっかりと見て、本当の姿を確かめようとする。見定める。
グランドデザイン [grand design]	すばらしい考案。立派な設計。
納付金 [のうふきん]	納入したお金。
一気に [いっきに]	ひといきに。休まないで。
割り込む [わりこむ]	人を押し分けて、列の中などに無理に入り込む。

## 練習 I

1. 「…『全入時代』をにらんで、生き残り競争が激しくなっている」にある「にらむ」の意味は何か、次から選びなさい。
  - a. すごい目でにらまれてこわかった。
  - b. 今度の試験はここがやまだとにらんでいる。
  - c. 政治情勢をにらんでいるが、インフレはおさえられそうもない。
2. 「福島県立会津大は、優秀な学生をいち早く確保しよう」と、…」にある「いち早く」の意味に当たるものを、次から選びなさい。
  - a. すばやく、すぐ。
  - b. もれなく、一度に。
  - c. 非常に短い時間のうちに。
3. 「機能別に分かれて個性化・特色化していくと見て、15～20年ごろまでを見据えた『高等教育の将来構想』の検討を進めている」にある「見る」と同じ使い方のものを、次から選びなさい。
  - a. 京都は古い町ですから、お寺や神社など見るところがたくさんあります。
  - b. スープの味を見なさいと言われても、料理のできる人でなければ、味を見ても役に立たないと思います。



- c. 子どもに難しいことを頼んでもだめです。仕事を頼むときには人を見て頼まなければなりません。
4. 「私立の4年制大学を経営する461法人のすべてを対象に調べたところ、…」にある「ところ」と同じ意味のものを、次から選びなさい。
- a. 会議が終わったところへ小林さんが慌てて入ってきた。  
 b. お休みのところを起こしてしまってますみません。  
 c. 留学について父に相談してみたところ、父は喜んで賛成してくれた。
5. 『『勝ち負け』の分かれ目は…いかに学生を主役にした教育ができるかにかかっている』にある「かかる」と同じ意味のものを、次から選びなさい。
- a. これは生死にかかる大問題である。  
 b. 老後を長男夫婦にかかる。  
 c. 町の劇場に芝居がかかっている。

## 【練習Ⅱ】

1. 大学「全入時代」はいつから始まると見積もられているか、次から選びなさい。
- a. 2004年  
 b. 2007年  
 c. 2009年